

特別支援教室における指導及び支援に関する アンケート調査結果について

本市では、障害の有無にかかわらず児童・生徒が共に学び、互いに理解を深められる共生社会の実現を目指し、令和5年度から令和7年度までの3年間を計画期間とする第4次特別支援教育推進計画を策定しました。

本計画に基づいた特別支援教育に係る様々な取組を推進するに当たり、特別支援教室を利用する児童・生徒の保護者を対象に「特別支援教室を利用しようと考えた理由」、「特別支援教室における指導及び支援」など特別支援教室における実態等についてアンケート調査を実施しました。

本リーフレットは、今回の調査結果について記載しています。

調査概要

1 調査目的

特別支援教室に通室している児童・生徒の保護者から特別支援教室の指導及び支援についての意見を聞き、今後の指導の参考とする。

2 調査内容

- (1) 特別支援教室を利用しようと考えた理由について
- (2) 特別支援教室における指導及び支援について
- (3) その他

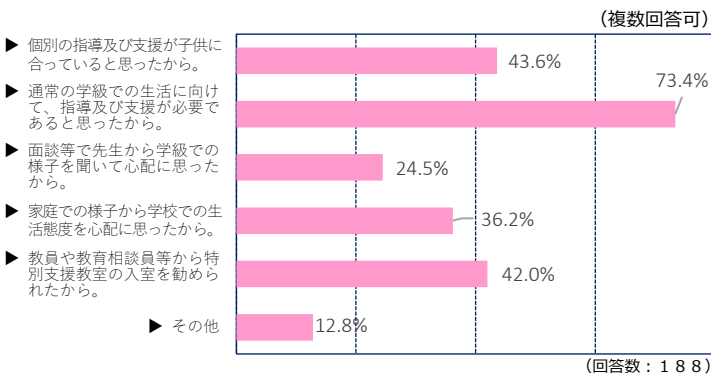
調査対象 …………… 特別支援教室に通室している児童・生徒の保護者
対象者数 …………… 児童・生徒673名（令和4年度通室者）の保護者
調査期間 …………… 令和5年2月28日から3月31日まで
調査方法 …………… ウェブアンケートフォーム
回答数（回答率） … 188件（27.9%）

調査結果のまとめ

1 特別支援教室を利用しようと考えた理由

子供の特性については、家庭での様子から保護者が気付くケース、教員との面談等から気付くケースなどがありました。入室理由としては、保護者が特別な指導や支援が必要だと考えたことが、最も多いことが分かりました。〈図1 参照〉

〈図1 特別支援教室の入室を考えるようになった理由〉



〈その他の主な内容〉

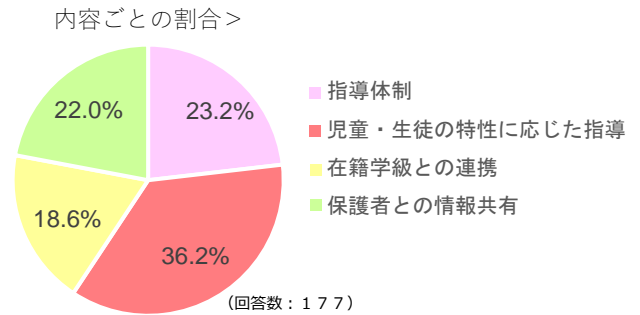
- ・発達障害のために配慮が必要な子供だから。
- ・5歳の時に、幼稚園での行動の様子に心配があり、発達検査を受けた。その検査結果から、通常の学級での指導だけでなく、特別支援教室での支援が必要だと考えたため。
- ・乳幼児期から子ども発達支援センター「あゆの子」に通っていました。運動発達遅延や、動作の不器用さなどがあり、何事にも「出来ないからやらない」という考えから、子供がクラスの輪に入れなくなる心配などがあったので入室を希望しました。
- ・子供に発達の面で課題があることは認知しており、以前から医療にかかっていました。就学に当たり、主治医から特別な支援の必要性を指摘されていたため、入室を希望しました。
- ・授業や学年行事などで、集団で活動することに難しさがああり、個別の支援が必要な状況があったため。

2 特別支援教室における指導及び支援について

この項目については、記述により回答していただいています。保護者からは、特別支援教室の取組に対する感謝の言葉など特別支援教室での指導を評価する意見が多くありました。また、内容ごとに整理すると、「指導体制」「児童・生徒の特性に応じた指導」「在籍学級との連携」「保護者との情報共有」の4点にまとめることができました。

内容ごとにまとめた割合は、〈図2〉のとおりになりました。

〈図2 特別支援教室における指導及び支援についての意見の内容ごとの割合〉



内容ごとの肯定的な意見と要望・意見等の割合、保護者からの主な意見について、次に紹介します。

(1) 指導体制

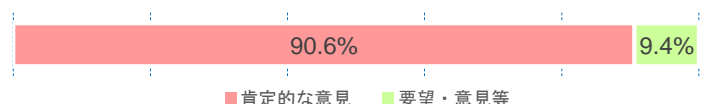
〈図3 「指導体制」に関する肯定的な意見と要望・意見等の割合〉



- 特別支援教室でのご指導のおかげで、中学校への登校を諦めずにいられます。難しい特性の子ですが、少しずつ確実に成長していると感じています。
- 特別支援教室で自分の気持ちのコントロールの仕方や気持ちを言葉にして伝える力を学び大きく成長したと感じています。一クラスに40人もいる教室にいることが苦痛で登校拒否気味でしたが特別支援教室の先生と学級担任の先生の連携で、この1年間は遅刻する日は多かったです。欠席することなく登校することが出来ました。
- 特別支援教室に行った事で、子供の心の辛さ等、相談できる大人が増えて、少しずつではありますが、何とかなっているかと思えます。どの質問にも言える事は、行く事に決めて良かったと言う事です。子供が生きる意味が分からない、というマイナスばかり考える子だったのが、少しずつ前向きになれた事、そして、親として、間違った向き合い方をしないで済んだ事、子供の出来ないこと等、細かく理解できた事全部がプラスになりました。
- ◇必要と思った時にすぐに入室できるといいと思いました。なかなか入れなかったのがネックでした。
- ◇読み書き障害について、繰り返し書いたり書き順を確かめたりしながら個別指導することが負担になる児童もいるため、指導方法を詳しく知るための教員の研修を増やしてほしい。

(2) 児童・生徒の特性に応じた指導

〈図4 「児童・生徒の特性に応じた指導」に関する肯定的な意見と要望・意見等の割合〉



- 保護者がどう支援したら子供の未来に繋がるか分からないことが多々あり、一つずつ順を追って支援していただいていると感じた。
- グループ学習で、先生の手助けをいただきながら実際にシミュレーションを行う時間が子供にとって良い時間となったようです。在籍学級でも自分の気持ちに気づき、困っていることを伝えられることが増えました。
- 自分のクラスでの集団行動は参加が難しい息子ですが、先生に息子が興味を持ちそうな課題を準備して頂いて個別の時間を過ごさせています。また、特別支援教室の集団の時間は細かく声掛けをするなどの工夫をして頂いたりするので気持ちが乱れにくく参加出来ている様に思います。特別支援室もとても過ごしやすいようで、とても有り難く思っております。
- 子供の特性に沿った指導がなされていると思います。子供が自分から説明してくれているタイプではないため、指導内容は配布される資料や保護者会、先生とのご連絡でしか知ることが出来ませんが、在籍学級に馴染む事が出来るようになっていきました。登校渋りの激しかった子供でしたが、ひばりのある日だけは、前向きに登校していました。
- ◇グループ学習を参観した際、個人の特性に応じた指導がなされているとは感じませんでした。視覚的な支援が必要そうな子に早口の口頭のみ説明だったため、結局その子は混乱していたように見えました。
- ◇子供の特性に応じた指導について、担当の先生によってスキルが大きく違うと感じる。特性を理解できる先生はそれに応じた誘導や指導ができていますが、できていないと感じる先生もいる。

(3) 在籍学級との連携

<図5 「在籍学級との連携」に関する肯定的な意見と要望・意見等の割合>

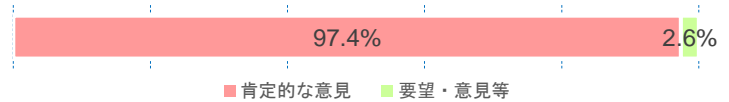


- 特別支援教室と在籍学級の担任同士がしっかりと連携をとってくださったおかげで、在籍学級での行動もかなり成長がみられました。保護者へも細かく変化などを報告して下さるので、安心してご指導いただけました。
- 支援教室の先生だけではなく担任の先生とも共有出来ているので、普段の学校生活にも生かされていたのではないかと思います。子供の特性を考えて、保護者との話し合いで気づいた事やお願いしたい事を受け止めてくださったので、乗り越えられた事が多かったです。親も子も困った時に頼れる先生がいてくださるのはとても心強いです。
- 静かに長いこと座ってられない子供の特性を理解して下さり、試験を少人数で受けられる様に学校に提案していただいています。

- ◇特別支援教室での指導が、在籍学級の指導で必ずしも生かされているようには思えませんでした。担任の先生もお忙しいのでなかなか個別対応や合理的配慮に理解を示してくれない場合もありました。
- ◇特別支援教室での指導が、在籍学級の指導で生かされるかどうかについては、その年の担任の先生の裁量によるものが大きいと感じています。今年度の担任の先生は、特別支援教室での指導の方向性を踏まえた上で、子供の特性をよく理解し、前向きな言葉掛けを多くしてくださいました。一方で、子供や親に対して「授業中にうるさい」「皆が困っている」などと、子供の特性を踏まえずに注意する担任の先生もいらっしゃいました。

(4) 保護者との情報共有

<図6 「在籍学級との連携」に関する肯定的な意見と要望・意見等の割合>



- 児童の課題を共有し、成長に向けての支援や、途中経過、結果などしっかりフォローバックして下さり、とても心強いです。
- 連絡ノートにて、細かく指導内容が記載されており、子供の反応など知ることができた。子供の特性を理解していただき、指導内容も工夫されており、安心して利用することができた。
- 特別支援教室の中の様子だけでなく、学校生活でどのように過ごしているかも把握して、成長したところを教えて頂けるのでありがたいです。対応についてお互い情報共有もでき、学校に慣れたように思います。どこがつかずきポイントか、代わりの方法はないかなど、個別で対応していただき、失敗不安の強かった本人もチャレンジする機会が増えました。
- ◇指導の結果は、ノートのやり取りで細かく報告していただいていたのですが、困りごとに対してこれからどうして行けばよいかなどの意見交換や報告が少なかったように感じます。(学校に顔を出す機会が多かったため直接話ができいたからかもしれません。)

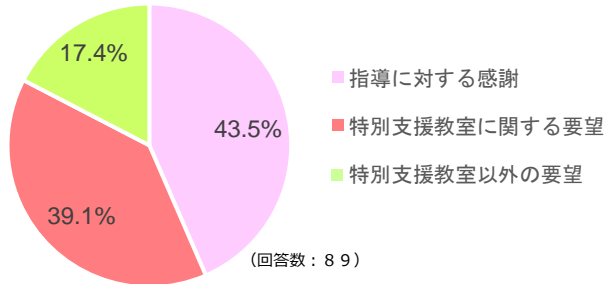
内容ごとに整理すると、保護者からは、どの内容についても、特別支援教室での指導を評価する肯定的な意見が多くありましたが、「指導体制」「在籍学級との連携」に関しては、他の内容に比べて要望・意見等が多いことが分かりました。

3 その他

「その他」の項目においても、特別支援教室の指導に対する感謝の言葉や要望などがありました。また、保護者からは、特別支援教室に関する意見のほか、特別支援教室以外に関する意見の記載もありました。

内容ごとの割合は、<図7>のとおりになりました。

<図7> その他の意見の内容ごとの割合>



感謝の言葉としては、「特別支援教室が子の居場所になっていること」「子に寄り添い、子の成長を見守ってくれたこと」「保護者にとって支えとなったこと」などがありました。

特別支援教室に関する要望では、「2 特別支援教室における指導及び支援について」で取り上げたものと同様の内容のほか、次のような要望がありました。

- 特別支援教室の指導日が、祝日や振替休業日だったときの指導日の振替の実施
- 通室指導により参加できなかった授業内容の保障
- 特別支援教室の授業参観・保護者会の実施
- 指導の目標と評価を児童・生徒と共有すること
- 障害の程度に応じて指導時数を増減すること
- 担当教員による指導の継続
- 連絡ファイルの電子化

また、特別支援教室以外の意見として、次のようなものがありました。

- 自閉症・情緒障害特別支援学級の設置
- 通常の学級における支援の充実
- 障害者理解の推進

アンケート調査の結果から

「1 特別支援教室の入室を考えるようになった理由」からは、子供の特性について、早期に気付くことの大切さが分かりました。発達障害は、一見して障害が分かりにくく、障害の現れ方も子供一人一人によって様々なため、周囲から「わがままな子」「乱暴な子」といった誤解を受けることがあります。

早期の気付きと、早期からの支援が、その後の子供の成長・発達に効果的であり、子供に何らかのつまづきがあるのではないかと気付いた場合は、早いうちに専門機関等に相談し、場合によっては診断を受けておくことが望まれます。

「2 特別支援教室における指導及び支援について」「3 その他」では、「指導体制」や「在籍学級との連携」など、特別支援教室に関する要望・意見等がありました。また、特別支援教室以外の特別支援教育に関する要望・意見等もありました。これらの要望・意見等については、特別支援教育の充実につながるよう、特別支援教室の指導や、今後の取組において参考とさせていただきます。

